

2023年1月30日(月)

老球の細道713号

1月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「もう年ですが、やってみます」と新たな挑戦への意欲を年賀状にしたためてスタートした。その決意を確かなものにするために元旦から郡山でBリーグを観戦。教え子のコーチする雄姿を見せてもらって熱い気持ちが戻ってきた。

気候も例年になく穏やかであったが自然の神様はやはり甘やかしてはくれなかった。1月も下旬になり天気予報では記録的な寒さが続く。先月コロナで懲りた二の舞は避けようと真冬の「三首(しゅ)の神器」、首にマフラー、手首に手袋、足首に厚手の靴下でウォーキングをしていたら今度は喉を患いクスリのお世話になる始末である。どうする室井!

1・読書から

◆「養生の目的は、できるだけ長く生命をひきのばすことでも、できるだけ好い競技成績をあげることでもなく、むしろ生命に定められた限界のなかで生活を有益で幸福なものにするにあるという点である」〈ミシェル・フーコー『性の歴史』新潮社〉：自分なりに「体調管理5原則」を設定している。血圧、睡眠、体重などを管理しているが、健康なだけのブタより不健康な高倉健さんでありたい。残された人生を思うように、楽しく、かっこよく。

2・新聞、パンフレット等から

◆「文学は人間を育み、人々の心を強くしなければなりません。残虐な運命に身を置かれた時、人間を飲み込む孤独に打ち勝てるように」〈朝日：ノーベル文学賞作家・スペトラーナ・アレシエービッチ〉：学生時代は睡眠薬代わりに本を読んでいた。特にバスケットが上手いかない時、それまで読んでいた本の一言一言にどれだけ助けられたか。バスケットも身体を丈夫にするだけでなく、それから学んだことで人間を育てるツールであってほしい。

◆「違うことを 予測できないことを 楽しめるようになっていく」〈朝日：折々のことば・はるちゃん(9歳)のお母さん〉：何事も指導する時不安にならないよう準備を心がけているが、それでも夢に出てきて睡眠を邪魔する時がある。予期できぬことが起きた時にどう対応するか、できるかを楽しむ心のレベルになりたいものである。

◆「やりたいことを見つけ、なりたい自分になった。でも、同じことを続けていけば古くなる。だから走り続ける」〈朝日：30代の学び直し〉：何事も最も避けたいのはマンネリ化。同じことの繰り返しはレベルアップにつながる。そのためにも学び続けなければならない。

◆「役者が本当に面白いと思って演じている空気は、必ず画面を通じて視聴者の方々に届くと思うんですね」〈朝日：撮影5分前：『警視庁アウトサイダー』西島秀俊〉：指導する時最も意識することは、私自身が指導する内容を本当に面白いと感じているかどうかである。

◆「真剣に死と対決しておかないと、いざ、突然死が迫ってきた時に間に合わない」〈朝日：天声人語〉：先日亡くなった作家の加賀乙彦氏の言葉である。生は偶然、死は必然。死の可能性を示唆された時、私はいさぎよく対決できるだろうか。父の悠然とした姿を思い出す。